

2009 年度博物館学芸員実習（神戸市立王子動物園）

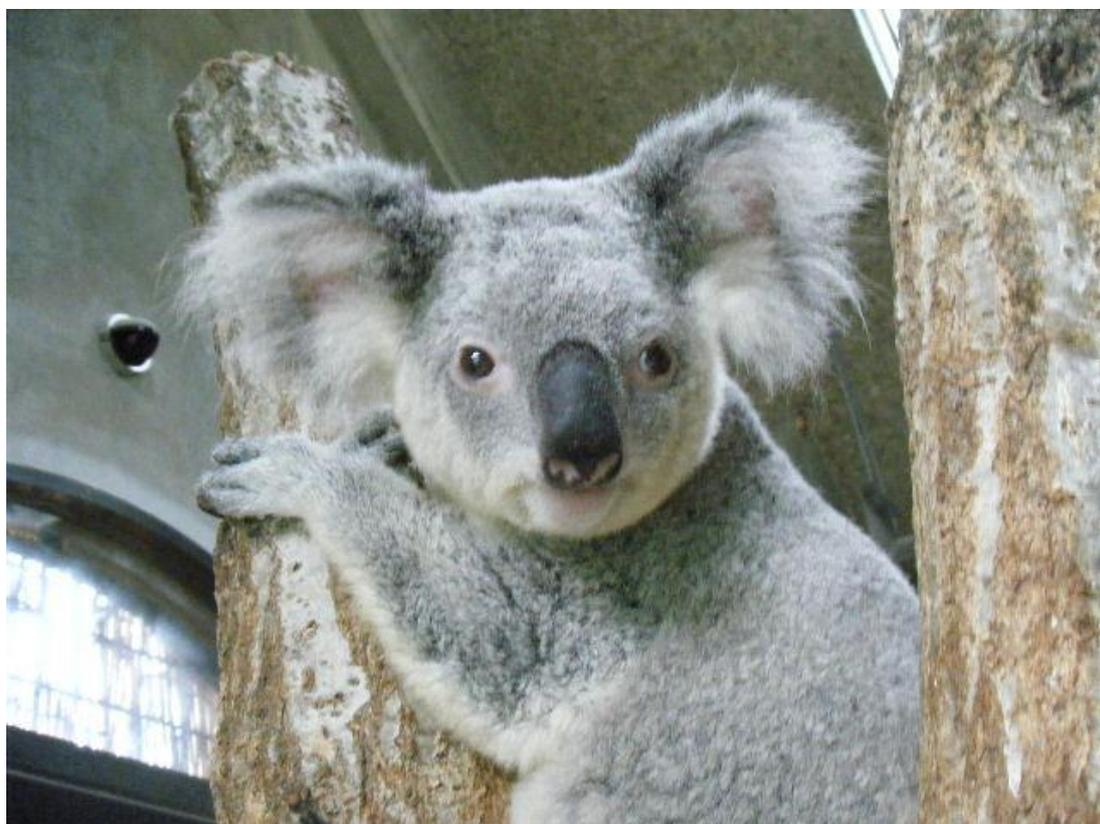
# 動物・仲間と過ごした2週間

甲南大学文学部 人間科学科

前川 実穂

王子動物園で2週間過ごし、この実習を通してでないと体験できないような本当に貴重な体験をし、とても有意義で勉強になった2週間だった。普段は触れないような動物に触ったり、えさを作って掃除もし、サマースクールでは実習生で協力し合うこともできた。

まず最初の二日間では班ごとに動物のえさやりや小屋の掃除をした。私はコアラの担当だったのでコアラのところへ行き、まず糞を拾い集めることからした。糞というと汚いイメージがあるかもしれないが、動物によって本当に様々で、草食系の動物はそんなに臭くない。コアラはユーカリの葉しかほとんど食べないので、糞からも葉の匂いがし、小さくて硬いので手で拾い集めることができた。その様子をコアラたちは木の上から見ていた。そして飼育員の方たちは「おはよう」と話しかけたり名前を呼んだりして、こういうちょっとしたコミュニケーションが大切だということを感じた。



こんなに近くでコアラを見るのは初めてで、毛が本当にぬいぐるみのようにフカフカで、掃除の時間はコアラが間近で見れるので好きだった。そしてコアラを抱っこするという本当に貴重な経験もした。

しかしすべてのコアラが抱っこできるというわけではなく、そのコアラの性格にもよることがわかった。私が抱いているのはおばあちゃんコアラで、もともとおとなしく、また木か



ら下りたりする力もなく人の手を借りないと生きていけないので、人に慣れているほうだからという理由で抱っこができた。しっかりとしがみついてきて、とても温かくてフカフカだったが、思っていたより重かった。これもまた良い体験となった。

コアラはオーストラリアから来るのだが、制限が厳しく、なかなか取り入れることはできないので、生殖機能があるコアラを動物園同士で交換したりしているというのを聞いて、とても驚いた。そして驚いたのと同時に命を簡単に増やすことなどできないという命の重さを感じたように思った。ただかわいいだけではなく、その裏にはたいへんな努力が必要であるということがわかった。

残りの日はサマースクールと動物絵画教室で、大半の時間を子どもたちと過ごし、ここでもまた色々勉強になったことがあった。

サマースクールでは子どもたちと一緒に動物のえさを作ったり、小屋の掃除をしたり、動物の糞で紙を作ったりした。どの子も初めて見たり触ったりすることばかりで、一生懸命話を聞いて楽しそうにしていたので良かったと思う。

動物のえさ作りでは動物が一日に食べる量に驚いたり、普段使わないような大きな包丁を使って果物や野菜を切ったりして貴重な体験になっただろう。



小屋の掃除では私はコアラの担当で、みんなで糞を拾い集めた。ただ拾い集めるだけでなく、形や硬さや匂いがどんなものかを調べながらしていき、またコアラの糞は決して汚いものではないということを説明し、まず自分が拾って子どもに汚くないということを示しながらしていった。子どもたちも後に続いてしてくれたので、ほっとした。

一番楽しかったのは、動物の糞で紙を作ることだった。使った動物の糞は草食系のばかりで、肉食は臭くてとてもじゃないが使えないからだ。草食は草しか食べていないのでは

とんど匂いもせず、初めに糞を手でつぶすところから始め、糞の中には消化された葉っぱなどがあり、それらを観察しながら進めていった。使った糞はコアラ、キリン、パンダなどである。

このとき子どもたちをまとめるのが難しく、一人の子に気を取られると他の子を見落としてしまいがちで、初日はどのようにしたらうまくまとめられるのだろうと頭を悩ましたが、段々と要領がわかってくるにつれて仕事をする上での大切なことを学んだような気がする。協力するとは自分ひとり分の仕事をこなすのではなく、終われば周りを見て困っている人がいたら助け、全体を見渡し、常に先のことを考えて行動することだと考えた。色々と考えさせられ、勉強になった良い体験だった。

絵画教室では動物をよく観察しながら、皆本当によく描けていたと思う。手や足はどうなっているかなど、細かく見ていくとおもしろい発見があったりして、それを子どもたちと共有するのが楽しかった。お弁当の時間なども班の子と過ごし、色々な話をしながら食べるのもとても楽しかった。どの子も動物が好きな子ばかりだったので、このサマースクールが将来大人になっても頭の片隅にでも残っていてくれたらいいと思う。

★ ★ ★ ★

初めは動物の専門知識もないし、上手くやっていけるだろうかと不安だったが、飼育員の方たちが丁寧に指導してくださり、また他大学から来ている実習生とも仲良くなれたので、本当に良かったと思う。動物園の裏側を見るという本当に貴重な体験をし、また色々考えることもでき、私の中の引き出しを増やすことができたように思う。この経験は絶対色褪せることはないだろうし、これからも大切にしていきたい。飼育員の方たちには本当にお世話になりました。ありがとうございました。

